

# 「考える」英語の授業を創る

## — 「平和・人権」をテーマとして—

A report on classes in which students think a lot about "Peace and Human Rights"

英語科 中 島 義 和

### 要 旨

中学校における英語学習は、生徒にとって新たな外国語習得へと向かう非常に大きな経験となる。アルファベットという文字を学習し、それが単語となり、やがて文や文章へと学習の幅が広がっていく。学習した言語材料や語彙を活用し自分のことを表現したり、何かについて説明をしたりすることが可能となる。中学1・2年次は「表現する」ことに主眼を置き、授業を創ってきたが、3年次は、学習する言語材料や語彙も深まり、より幅を広げた英語学習に取り組ませたいと考え、「考える」ことを授業のもう一つの核にすることにした。その際、教科書の内容や担当学年の総合的な学習のテーマ、道徳の授業との関連なども意識し、「平和」「人権」をテーマに設定することにした。

授業を計画する際には、UNESCO（国際連合教育科学文化機関）が推進してきた国際理解教育（education for international understanding）の考え方を意識するようにした。LL教室で行う授業で視聴する映像教材もこの考え方を意識し選定するようにした。そこで、『WORLD TRADE CENTER』および『FREEDOM WRITERS』の2作品を教材として用いることにした。また、教科書から発展させた学習内容として、『We Are the World』のビデオ制作や、アンネ＝フランクの日記の原典英訳版での学習、キング牧師の軌跡を描いた高校検定済教科書教材「The March to Freedom」の学習とあわせて、本テーマの学習プログラムと位置づけた。特に、卒業前の時期にあたる1月・2月の授業では、「The March to Freedom」と『FREEDOM WRITERS』の2つの教材が内容的にもクロスする部分があったので、その点を意識しながら授業創りを進めた。

本稿は、その授業創りの研究実践の概要について述べたものである。

キーワード：考える 平和 人権 表現する 国際理解教育

### I はじめに

新学習指導要領に基づく教育課程では、外国語科（英語科）の授業時数は週4時間となった。本校英語科では、そのうち週3時間を専任教員による教科書TOTAL ENGLISHを中心としたクラス一斉授業に充て、残りの週1時間は非常勤講師によるクラス多展開授業を行っている。筆者は自分の担当する週3時間の授業のうち、週2時間を教科書を用いた授業、週1時間をLL教室を活用したMovie & Musicの授業に充てている。

筆者は2010年度に第1学年を担当し、3年間学年を持ち上がり、英語の授業を担当してきた。第1・2学年次は主として「表現する」ことに焦点を当てた授業・研究を行ってきたが、2012年度の第3学

年次は、「考える」ことを授業や活動の中で意識的に行う授業づくりを目指し、実践してきた。本稿では、検定教科書内容からの発展的学習やLL教室で行う映像を教材として、「考える」きっかけへとつなげる学習、また中学校の教科書の内容から発展させ、高校の教科書の教材を活用した授業の実践について報告したい。

## Ⅱ 研究の構想

### 1. 研究目的

「考える」ことを意識させる英語科の授業を計画・実践し、検証することを本研究の主要な目的とし、教科書で扱われている題材に加え、LL教室で扱う映像教材や高校で使用されている教科書などの活用や昨年度までの研究で取り組んできた、生徒が主体となる活動を絡めた「考える」授業の可能性を考察する。

### 2. 研究方法

#### (1) 概要

- ①テーマ「平和・人権」に関係する題材を選定し、授業で取り扱うねらいや方法、順序、単元計画などを考える。
- ②単元計画・授業案に従い、ワークシートを作成する。
- ③計画に基づいて授業や活動を行う。
- ④生徒の記述したワークシートやアンケートの内容から学習効果や目的を達成する内容であるか検証・考察する。

#### (2) 対象

お茶の水女子大学附属中学校 2012年度 第3学年

#### (3) 期間

2012年10月～2013年3月

#### (4) 分析内容

- ①授業中の反応観察や公開研究会の録画映像検証、活動の成果物検証
- ②ワークシートの生徒の記述
- ③学年終了時のアンケート調査

## Ⅲ 授業の構想

### 1. 授業のねらい

中学校の3年間の英語の授業や活動を通して、生徒たちが英語の力はもちろんのこと、「他者を受け入れ、理解するという姿勢や態度」や「自分の思っていることや考えていること、感じていること

などを積極的に相手に伝えよう（表現しよう）とする力」を身につけることをねらいとして取り組んできた。そのねらいを達成するための一つのきっかけとして、第3学年では、「平和」や「人権」をテーマとした題材を通し、「考える」機会を多く設定した授業を創りたいと考えた。その授業での活動の一つ一つが前述した姿勢や態度、力の育成へとつながることや、生徒たちの中に少しでも何かが残ってくれることを期待し、授業を計画することにした。

第2学年次には、教科書で Mother Teresa について扱ったが、これは第3学年次における本テーマの学習への扉となる学習であった。また、担当学年の総合的な学習のテーマが3年間を通じて「いのち」（第1学年「いのち～生まれる～」、第2学年「いのち～いのちと向き合う～」、第3学年「いのち～生きる～」）であったこともあり、「平和」や「人権」について考える機会も多かった生徒たちである。その生徒たちに英語科の視点から、3年間学習してきた英語を媒介としながら、このテーマについて「考える」機会をつくりたいと思い、本授業を計画するに至った。

## 2. 本授業において意識したことと目標

本テーマに基づく一連の授業を行うにあたり、授業計画の際には、「平和」や「人権」というテーマだけが一人歩きせず、学習教材や他教科、総合的な学習や道徳とつながるように心がけるとともに、UNESCO（国際連合教育科学文化機関）が推進してきた国際理解教育（education for international understanding）の考え方を意識するようにした。この考え方は、世界平和実現のために不可欠な考え方である。また、この考え方においては、国際理解に加え、国際協力（international cooperation）や国際平和（international peace）への努力も必要である。和田（1999:2）は、国際理解教育を英語教育の観点からとらえ、次のように定義している。

自国や自分が属する文化だけでなく他国や異文化を理解する中で、平和と人類の福祉のために諸問題を解決・改善しようとするための教育

また、国際理解教育のモデルとされている英国の World Studies は、Fisher & Hicks（1985:8）では、以下のように定義され、学習者のどのような面を育てるべきなのかを考える上で、参考となる。

studies which promote the knowledge, attitude and skills that are relevant to living responsibility in a multicultural and inter dependent world

この定義より、子どもたちの knowledge（知識）、attitude（態度・姿勢）、skills（技能）を幅広く伸ばすことが求められていることがわかる。この定義を参考にして、以下のように授業全体の目標を設定することにした。この目標と後掲の授業計画に示したねらいを意識して、授業を構想した。

- knowledge（知識）：自と他（存在そのものや文化・社会、考え方など）、平和と紛争、平等と不平等、人権について知る。
- attitude（態度・姿勢）：人間としての尊厳を理解したり、自分たちをとりまく社会の様々な問題に関わろうとしたり、異なる文化や社会・状況やそこにある人について理解しようとする。
- skills（技能）：自ら学習を深めるために情報を収集し、それを他者と交流したり、整理したりして活用し、自らの思考や理解をさらに深める。

## 3. 授業計画

授業は前述のねらいや目標等を意識し、立案した。「平和」・「人権」というテーマに関連して、5

つの教材を用いる授業を計画した。中学3年生の検定教科書からの発展的な学習として取り扱う教材が2つ、LL教室での主に映像視聴から「考える」ことにつながる教材が2つ、そして筆者が高校時代に学習した英語Ⅱの検定教科書からの教材という5つである。

教科書教材や発展的な読み物教材の学習においては、これまで学習して、習得してきた英語力（文法力や語彙力）を活用しつつ、わからないところは、辞書を活用したり、推測して読む訓練をしたりする機会となることを期待し、その内容を理解したところから掘り下げて「考える」授業を目指した。また、映像教材では、音声として入ってくる英語表現と字幕、演者の表情や場面の状況などを頼りに英語の世界を味わいつつ、その内容について「考える」ことを期待し、立案した。

以下に、授業計画を示す。(資料1 「平和」・「人権」をテーマとした授業の計画)

1. 『We Are the World』	
ねらい	①USA for Africaのメンバーがどのような気持ちでどのような状況を変えたか考えたかを考える。 ②USA for Africaのメンバーになりきり、自分たちの力で『We Are the World』の映像を創り上げる。
授業計画	
教科書Total English 3 Lesson 本文の内容学習	
3時間	
『We Are the World』DVD視聴および説明(LL教室)	
1時間	
『We Are the World』歌詞の学習、内容を考える(LL教室)	
1時間	
『We Are the World』映像制作	
6時間	
『We Are the World』完成映像試写会(卒業特別プログラム時・学年一斉)	
1時間	
2. 『WORLD TRADE CENTER』	
ねらい	第1学年次にアメリカ同時多発テロについて学習をした。その事件に基づいて作られた作品から、この事件について考えるとともに、「平和」とは何か、人を大切にするとどのようなことを考える。
授業計画	
配当時間	
アメリカ同時多発テロ事件についての復習(第1年次に概要を学習済み)	
0.5時間	
『WORLD TRADE CENTER』映像視聴および視聴ワークシート記入	
0.5時間×6回	
3. 『The Diary of a young girl (Anne Frank)』	
ねらい	生徒たちと同じくらいの年齢のアンネ＝フランクが置かれていた状況や歴史的背景を彼女の日記から読みとり、「平和」と「戦争」について考える。
授業計画	
配当時間	
教科書Total English 3 Lesson 本文の内容学習	
4時間	
原典の英訳版教材に関する課題	
1時間+家庭学習	
課題を基にした「考える」「表現する」活動	
1時間	
4. 『FREEDOM WRITERS』	
ねらい	人種や民族の違いや「人権」について実際にあったストーリーから学び、考える。それと同時に、人が変わるきっかけや自分の人生についても考える。
授業計画	
配当時間	
『FREEDOM WRITERS』映像視聴・説明・視聴ワークシート記入	
0.5時間×6回	
5. 『THE MARCH TO FREEDOM』	
ねらい	キング牧師が人生を捧げてきた「自由への行進」とはどのようなものだったのかを読み取る。彼の生き様や彼が成し遂げたことから「平和」「平等」「人権」について考え、われわれがどのような社会を築いていけばよいのか考える。
授業計画	
配当時間	
高校教科書UNICORN ENGLISH COURSE II Lesson7 『THE MARCH TO FREEDOM』本文の内容	
5時間	
キング牧師のスピーチや人生について	
2時間	
キング牧師のスピーチ発表会	
1時間	

資料1 「平和」・「人権」をテーマとした授業の計画



た内容と関係のある部分を生徒に渡し、ワークシートの設問に基づいて個人学習を行う。時間が足りなかった生徒は自宅での課題学習とし、設問に関して渡された日記を読み深める。

授業では、読み深めた英語の日記や自分が記したメモや考えをもとに、学習班での意見交換や討論などを行い、さらにそれを活かして自分の考えを深め、表現し、発表した。

同じ教材に対しても、生徒によって様々な考え方や感じ方、とらえ方があり、それを共有する中で、異なる意見の受容や共有、思考の深化がなされ、それが自己の考え方をより深めたり、変容させたりと、興味深い時間となった。



写真2 学習グループで話し合いをしたり、発表を聴いたりしている様子（公開研究会）

#### 4. 『FREEDOM WRITERS』

『Freedom Writers』（エリン・グルーウェルとフリーダム・ライターズ著、田中奈津子訳、講談社2007年）を原作とした映画『FREEDOM WRITERS』（2007年）を視聴し、視聴ワークシートの設問に沿って考えを深めた。

<p style="text-align: center;">For 9th graders of Junior High School Attached to Ochanomizu University</p> <p style="text-align: center;"><b>★LL Worksheet [No.21] ★</b>    <small>by Yoshikazu Nakashima</small></p> <p style="text-align: center;"><b>FREEDOM WRITERS(4)</b>    Chapter -</p> <p>1. 次の質問に答えましょう。</p> <p>① エリンは孤児でなければならぬと思っただけで、理由とともに書きましょう。今日は時間がないので、自分の好きな理由を一つだけ書いてください。</p> <p>② グルーウェル先生の表現をどのように感じましたか。</p> <p>③ 今日読んだ新聞の感想を書きましょう。</p>	<p><b>Message from Miss Glas</b></p> <p>I am not a hero. No. I did what I had to do, because it was the right thing to do. That is all. You know, we are all ordinary people. But even an ordinary secretary or a house wife or a teenager can, within their own small ways, turn on a small light in a dark room. I have read your letters, and your teacher has been telling me many things about your experiences. You are the heroes. You are heroes every day. Your faces are engraved in my heart.</p> <p>私はヒーローではない。やるべきことをやっただけ。正しいことだから、それだけ。</p> <p>私たちみんな普通の人間。でも会社の秘書でも家庭の主婦でも1代の若者でもそれなりのおどかぬ力で、希望の光をともらせる。正しい道には、あなた達の手紙を読んだら、先生からあなた達の経験もいろいろ聞いたわ。あなたたちこそヒーローよ。毎日をヒーローとして出ている。あなた達の顔を心に刻んだわ。    女子</p> <p>Date <u>Wednesday January 23, 2011</u>    Weather <u>Sunny</u></p> <p>Class <u>91</u>    No. <u>39</u>    Name _____</p>
---	---

資料3 『FREEDOM WRITERS』の視聴ワークシート

#### 5. 『THE MARCH TO FREEDOM』

高校教科書 UNICORN ENGLISH COURSE II（文英堂／平成6年2月検定済）Lesson7「THE MARCH TO FREEDOM」の本文から、キング牧師の人生やその生き様を学習した。本文中に出てくるキング牧師のスピーチの一部を学習するとともに、映像で実際の演説の様子も視聴した。また、キング牧師のスピーチの一部を選択し、暗唱発表会を行った。

本教材の学習に関しては、LL教室での授業で視聴していた『FREEDOM WRITERS』と関連づけながら授業を行った。また、両方に共通してタイトルについての「FREEDOM」「自由」の意味についても生徒に問いつつ、考えさせながら授業を展開した。

## V 考察と課題

### 1. 視聴ワークシートからの考察

LL 教室での Movie の授業で扱った『WORLD TRADE CENTER』と『FREEDOM WRITERS』の視聴ワークシートのいくつかの記述から考察したい。

★『WORLD TRADE CENTER』の視聴ワークシート 全体の感想より一部抜粋(下線は筆者による)

・・・映画の最後には「日ごろ忘れていた善を見せてくれた」と書いてありました。この映画ではそれをよく表していたと思います。「助け合いの精神」多くの人々が協力して他の人々を助けようとする様子はまさしく「善」だと思いました。そして多くの方は当たり前だったことは、本当は当たり前ではなく幸せなことだということに気付かされたと思います。私自身も今まで家族がいることは当たり前だし、今の生活があることが当たり前で、だからこそ何かほしいなどという欲がありました。でもこの映画を見て、家族がいること、そして今の生活があることは当たり前ではないということに改めて気付かされました。日本は他の国にくらべると平和だし、私も今をゆっくりとすごしている、ふだんは当たり前に思ってしまうが、それは本当に幸せなことなのだなあと思いました。だから、この事件は私たちに「日ごろ忘れていた善」だけでなく「日ごろ忘れていた『幸せ』」を見せてくれたと思います。同時多発テロ=多くの悲しみを与え、あつてはならない事件としか思いませんでした。・・・

・・・この映画は、私のようなこの事件を知らなかった人たちにもその悲惨さを伝える上ですごく効果的なものだと思います。家族の愛情の深さや大切さ、仕事仲間の友情のすばらしさ、助け合う心の美しさに加えて、このテロが本当にひどいものであったこと、現実起きたものであることが見る人に痛いほど伝わります。怖いほど。このような大きな「心の損失」があった時どうすれば良いのか、私は考えるようになりました。自分が死ぬ側ではなく、もしも家族のうち誰かがいなくなったとしたら、今まで普通だったことが突然過去の思い出となってしまいます。・・・

・・・私はこの映画を通してたくましく生きるためには、「自分が生きる意味を見出す」ことがすごく大事だとわかりました。自分の弱さにうちかつためには大切な人を持つこと、まだ死ねないと思う強い気持ちを持つこと。これからの人生、この学びを大切に生きていきたいと思っています。そして、その人生の中で自分が生きている意味や価値を見出したり、大切な人を持てたりできたらすごく幸せだなあと思いました。たくさんの大切なことを教えてくれたこの映画は本当に語り継ぐべきものだと思います。

・・・この映画は「希望を捨てずあきらめないことの大切さ」と「仲間・家族の支えの大切さ」を伝えてくれました。初めは、ビルが崩壊したり、血まみれの人が出てきたりする上、実話なんて、怖くて嫌だな、楽しく笑える映画がいいなと思っていました。けれど、最後まで見て映画のメッセージに気付いた時、中学生というこの時に、この映画を見られて良かったなと思います。アメリカ同時多発テロは、自然災害でも何でもなく、人の手によって起こされたもので、この社会に生きる大人になるにあたって知っておくべき負の出来事の1つです。ですが、目をそらしてしまっていました。そのような出来事を学べるとともに、普通に生活している時にはつい忘れがちな家族や仲間がいることの強さ、ありがたみ、大切さを思い出すことが出来ました。この映画はぜひ全世界の中学生に見てもらいたいです。

上記の感想は代表的なものであるが、生徒たちの多くはここに代表される内容を感想として記していた。筆者が下線を施した部分は、本授業のテーマである「平和」や「人権」と関わると考えた部分である。生徒たちは漠然と「平和」という状態をとらえていたが、本作品で「平和」とは決して言えない状況にふれることにより、今自分がおかれている環境を見直し、「平和」というものをとらえ直したのではないだろうか。その中で、この作品から様々なメッセージを感じとり、家族な仲間の大切さや助け合いの精神、生きる意味や価値などについて考えたようであった。このようにメッセージ性が強く、実際に起きた事件をベースに創られた作品にふれることで、生徒たちの考えは揺さぶられる。さらに、生の英語学習ができるのは大変有意義である。

★『FREEDOM WRITERS』の視聴ワークシート 全体の感想より一部抜粋（下線は筆者による）

・・・この映画では先生にとっての生徒をとるか夫をとるかの選択や、生徒にとってのギャングと友達の難しい選択が多くあり、正しい選択というものがどういうものであるかが伝わってきたと思う。たくさん悩んで考えたからこそ、よりいい人になっていけるのだと思う。世界には、まだ宗教や人種の違いによる差別が行われているが、白人のほうが黒人より優位であったり、たくさん信仰されている宗教の方が少数派の人よりえらいということはこれから消えていくと思う。しかしそのためには全員が差別をなくすために色々な人を受け入れ認めていく必要があると思った。『FREEDOM WRITERS』はアンネの日記のように、世界中の人に協力することによって、他の人種でも仲よく出来ることを見せられたと思う。

・・・フリーダム・ライターズの中のできごとが、ノンフィクションだと改めて思うと、本当に感動する。人種差別の世の中で、あの203号室だけが、どの人種も平等であり、対等の立場にいた。僕は、ヒトラーの差別と、白人が黒人に対する差別しかしなかったが、その時は、もっと色々な人種の人たちが、お互いに差別し合っていた。それを思うと、今の世の中はとても平和で、安全なように思える。また、日本は、世界の中で、最も安全な国の中の一つに入ると思う。このような世の中になることができたのも、誰かがMs. Gのように、人々をまとめ、お互いを理解させたからなのではないかと思う。この映画は自分たちに昔あった事実を伝えるとともに、そのような「今」についても考えさせるようなものだったのではないだろうか。

この様な対立のある世界が本当にあるのだなと改めて感じました。外に一步でも出たら銃声が聞こえたり、スラム街みたいな所がありクラスメートでさえも信じられない世界とはどんなものなのかすごく考えました。Ms. Gは今まで無縁だった人種対立の世界に自ら入って行って根本から考え直す、その行動力にもおどろきました。この映画は人種対立で危うかった世界があったという事実を皆に訴え、「平和な世界」というものに近づいていくためにはどうするべきかを鑑賞者に考えてもらうというねらいがあったのだと思います。私は真実の重要性をわかることとお互いに譲り合うということが大切だと思いました。・・・

・・・この映画の主題についてですが、私は「実現に向けて行動することの大切さ」「仲間や絆の大切さ」、この2点を特に伝えたかったのではないかと思います。「実現に向けて行動することの大切さ」とは、間違ったことをなおすこと、自ら行動すること、あきらめないこと、それらの大切さ。「仲間や絆の大切さ」は、仲間やその絆を大切にすること、人種は違ってもお互いを大切にすること、それらの大切さ、必要さで、私はこれらのことを映画を見ていて強く感じることができました。「何かを変える」ということはとても難しいことです。自分を変えること、周りの考え・関係を変えること、規則を変えること、社会を変えること、すべてが勇気のいることです。時間や労力、仲間など、必要なものがたくさんあります。ですが、何かを変えるためには、やはり努力をして、自分自身と、そして周りと戦わなければならないのです。そのことを強く感じました。

・・・特に印象に残っているシーンは生徒たちがホロコーストの博物館に行って、今自分のしていることのあさはかさを知り、自分よりもっと幼い子どもたちが次々と殺されていったという事実を知り、衝撃を受けていたシーン。生徒たちが自分自身の目でそれを知ったということが、この映画において大切なシーンだと思った。また、生徒たちはみんなそれぞれの悩みや苦しみを抱えていて、それをノートに書くことによって、誰にも言えないことを言葉にして吐き出していた。そしてそれはいつしかミスGに助けを求めるようになっていった。この変化も大きかったと思う。この映画の主題である人種差別は本当に単なる見かけによって判断されていることがよく分かった。203教室の生徒はだんだんお互いを家族と思えるくらい信頼関係が生まれていった。それは人種を越えてお互いを受け入れられたということ。まさにキング牧師の not judged by the color of their skin but by the content of their character の部分に当てはまると思った。キング牧師とつながることも発見できてよかった。またヒースさんの You are the heroes というセリフも印象的だった。毎日を生きている自分こそがヒーローなのだ自分に思わせることができた。

生徒たちの多くは、本作品のテーマを「人種差別」だととらえたようである。本作品から、「人種差別」の壁をどのように取り除いていったかの過程を学んだ。そして、人種や民族の壁が取り壊され、そこから新たに生まれる信頼関係や仲間意識、絆の尊さや、一人ひとりが個を受け入れ、認め合う、尊重し合うことの重要性、平等で平和な世界などについて考えたようである。

また、本作品には、『アンネの日記』やキング牧師に関する部分が登場するのだが、これらをLL

教室以外での学習とつなげ、そこに関連性や共通性を見出し、考えようとする生徒もいた。

このように、英語での学習をきっかけとして、私たちを取り巻く諸問題や歴史的背景などについて学び、考える機会を持つことは、英語学習を深める上でも有効であると感じた。

## 2. 英語の授業のふり返りからの考察

卒業前に英語の授業をふり返っての感想を書いてもらった。その中から、本テーマと関連するものをいくつか紹介したい。(下線は筆者による)

1年生から3年生までの3年間の間、今までやったことのないことをたくさんやってきたなと感じました。大きな行事のようなものから、毎週LL教室で映画を観て聞き取りをしたりするのは本当に楽しく、英語をより身近に感じるようになりました。また、マザーテレサやアンネフランク、キング牧師など、歴史上の人物についても学ぶことができました。日本語ではなく英語で内容が理解できるか不安もありましたが、新鮮な感じがしてどんどん読み進めていくことができました。あつという間の3年間でしたが、その間に英語を楽しんで学習してきて、もっと色々なことを知りたいと思えました。

私は英語は得意ではありませんが、大好きです。たしかに授業スピードは速かったです。でも、その分LLの授業で、音楽を聴いて、映画を観て、ただ英語の書き言葉だけでなく話し言葉のようなことも学ぶことができました。また、9・11やタイタニック、FREEDOM WRITERSなど、本当に起こったことについて同時に学ぶことができました。普通の英語の授業だけではなく、LLの授業では大切なことを得ることができたと思っています。普通の授業では授業のスピードが速い分集中して取り組みました。アクティビティなど、ただ座って学ぶだけでなく、実際に使ってみたり、教科書の延長でアンネフランクについてやったり、EPPやWe Are the WorldのPVを作ったりなど、楽しかったです。物を覚えたり、授業を受ける上で、楽しく取り組むのはとても大切なことだと思います。だから、3年間苦もなく授業を受けることができ、元々好きだった英語が大好きになって、得意になりたい、もっと学びたいと思えました。また、もっと海外について知りたいと思うようにもなりました。そういう意味で、中学校3年間の英語の授業はとても大切な授業だったと思います。これから先、英語を得意できるように努力をしていきたいと思っています。

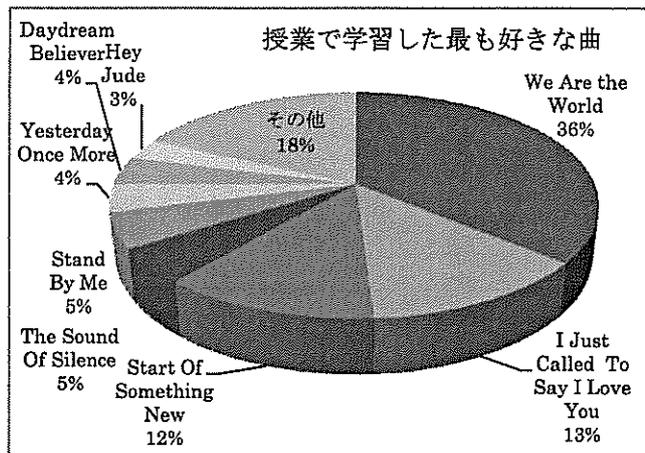
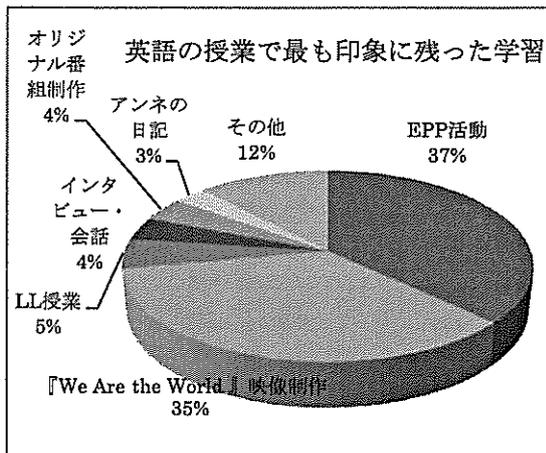
英語の授業は中学校に来て初めて習う教科でした。また、私は中学校に入学する前に習っていたのもあり、中学校での英語の授業をやっているかどうかをとっても心配していました。しかし、授業を受けてみると・・・いまままで抱いていた不安は消え去ってしまうほどとても楽しい授業に出会えて、いまに至ります。英語の授業はわたしにとって、単に楽しいというものだけではなく、あらゆる知識を学び、あらゆる視点から、方向から物事を見るということを学ぶことができました教科でもあります。特にLLの授業で観た映画においてですが、映画に出てくる人たちは全員“何か”を持っています。大切なものであったり、強く自分の中に抱えている信念だったり、私には持っていないものです。だからこそ、この3年間の英語の授業で見つけられた気がします。

英語の授業は、EPPや“We Are the World”のPV作り等、習得したものを発表するという内容が多く、非常に楽しかったです。英語の授業を通して、当時の歴史について深く学んだり、それらについて自分の意見を述べ合ったりすることで、自分の考えだけでなく、他の人達は、どのように思っているのかについて、詳しく知ることで、様々な視点から学ぶ能力も学ぶことができました。3年間、様々なことを教えて頂き、本当にありがとうございました。

## 3. 学年終了時のアンケートより

第3学年の授業が終わった後、ふり返りを行った。その中で、3年間の英語の授業で最も印象に残った学習および授業で学習した最も好きな曲のアンケートを行った。資料4の結果から、生徒たちにとっては、仲間と協力して創り上げるEPPの活動や『We Are the World』の映像制作活動といった生徒が主体的に行う表現創作活動が印象に残っていたことがわかる。また、資料5の結果からは、かなりの時間を費やして歌うことができるようになった『We Are the World』という曲に愛着を持つ

ていることもわかった。



資料4 英語の授業で最も印象に残った学習

資料5 授業で学習した最も好きな曲

#### 4. まとめと課題

「平和」・「人権」を2012年度第3学年の授業のテーマに設定し、5つの教材に取り組んできた。1つ1つはそれぞれが独立した教材である。しかし、それらを1本の線で結び、とらえることにより、授業者のみならず、生徒たちの意識も変わったと感じている。1つのテーマに向かい、様々な方向から、様々な方法でアプローチしていくことで、より多角的・多面的な考え方を養うことが可能になる。総合的な学習での視点、道徳からの視点、英語科という教科からの視点で、共通する部分もあるだろうし、異なる部分ももちろんあるだろう。そして、英語科の中でもテーマに対しての様々なアプローチの方法がある。しかし、その土台にある「伝えたいこと」や「考えてほしいこと」を1つのテーマとしては貫くことによって、より考えが深まっていく。したがって、テーマに基づいて、生徒たちに「考える」きっかけとなる教材を提示することは極めて有効であると感じている。教科書で扱われている題材に加え、LL教室で扱う映像教材や高校で使用されている教科書という異なった題材を教材として活用することにより、生徒を様々な方法や方向からテーマへと近づけることができるということである。

また、昨年度までの研究で取り組んできた、生徒が主体となる活動を絡めた「考える」授業の可能性だが、今回の『We Are the World』の映像制作の様子から、教員主導型の授業と比較して大きな教育的意義を感じた。これは昨年度に実施したEPPという活動からも感じたことだが、やはり生徒は座学での学びを、仲間と考え、何かを創り上げていく中で、活かしていく中に学習へのやりがいや意義、達成感などを見出していくのである。『We Are the World』の学習では、その作品に込められた願いやメッセージについても考えた。そのメンバーが協力して創り上げた作品を自分たちも自分たちの力で創り上げることで、彼らの体験を疑似体験することになる。当然、各役割を演じることににおいて、自分の歌詞を覚え、歌えるようにし、本人に近づけるため研究するのである。また、クラスとして一つのを創り上げるため、他者とコミュニケーションをとることが不可欠なのである。互いにパフォーマンスを指摘しあい、切磋琢磨し、よりよいものを創ろうとする空気がそこにはあった。この空気の中には英語の得意・苦手は関係なく、真剣な顔と笑顔であふれていたのである。これこそ「学校ならではの」英語の授業であり、生徒の記憶に残る体験なのではないだろうか。

3年間持ち上がり、中学校英語の授業を担当する機会を得たわけだが、電子黒板にフラッシュされたピクチャーカードを大きな声で発音練習したり、アルファベットの練習をしたりしていた生徒たち

が3年間でここまで成長するかと思うと驚き以外の何物でもない。今後の課題として、それぞれの学年の発達段階に応じた教材を考えるとともに、「表現する」だけでなく、「考える」きっかけを与えられる英語科の授業を開発していきたい。

## 参考文献

- エリン・グルーウェルとフリーダム・ライターズ 訳＝田中奈津子（2007）『フリーダム・ライターズ』講談社
- 中島義和（2010）「Small Activities を積み重ねて創る英語科授業—「伝え合う力」「表現する力」の育成を目指して—」お茶の水女子大学附属中学校紀要・第39集 P.55～P.66
- 中島義和（2011）「表現の工夫を意識させる授業づくり—「表現する力」の育成を目指して—」お茶の水女子大学附属中学校紀要・第40集 P.53～P.76
- 中島義和（2012）「表現する力の育成と学校教育目標を意識した活動—生徒たちが自ら創り上げる英語発表活動を通して—」お茶の水女子大学附属中学校紀要・第41集 P.73～P.100
- 村野井仁、千葉元信、畑中孝實（2001）『実践的英語科教育法 総合的コミュニケーション能力を育てる指導』成美堂
- 文部科学省（2008）『中学校 学習指導要領 平成20年3月告示』
- 文部省検定済教科書 高等学校外国語用（英語Ⅱ）UNICORN ENGLISH COURSE II（1994）文英堂
- 和田勝昭・大谷泰照（監）（1999）『英語教育別冊：英語科における国際理解教育—指導と評価』第48巻第3号 大修館書店
- ERIN GRUWELL. (2007). *Teach With Your Heart*. BROADWAY BOOKS
- ERIN GRUWELL and THE FREEDOM WRITERS FOUNDATION. (2007). *The FREEDOM WRITERS DIARY TEACHER'S GUIDE*. BROADWAY BOOKS
- Fisher, S. & Hicks, D. (1985). *World Studies 8-13: A teacher's handbook*. Edinburgh: Oliver & Boyd.
- THE FREEDOM WRITERS with ERIN GRUWELL. (1999). *THE FREEDOM WRITERS. DIARY* BROADWAY BOOKS

## 註

\*1 EPP (English Presentation Project)：第2学年次に各学級から3名ずつ合計12名のプロジェクトリーダーを選出し、1月中旬から3月下旬にかけて生徒主体で創り上げた英語活動。クラスごとにプロジェクトリーダーが授業案を作成し、授業を行った。本英語活動では、英語劇（生活班での発表）・英語学年課題曲（The Sound Of Silence）・英語学級自由曲（1・2学年で学習した英語曲から選択）・英語詩群読（各クラスのプロジェクトリーダーが選んだ英語詩）を扱い、学年の最後の授業日に2時間で発表会を行った。その企画・運営もすべてプロジェクトリーダーを中心として実施した。審査員を都立高校の教諭や附属小学校の教諭、学年所属の教諭、ALTの講師、英語科の講師 にお願ひし、各部門、総合の順位も出した。また、保護者にも案内をし、公開した。本活動においては、英語詩や英語曲の歌詞についての解釈について話し合ったり、表現を工夫するための手立てを話し合ったりと、多くの話し合いの場面が見られた。また、様々な視点から一つのものに取り組んでいくための多面的・多角的なものを見方を体感する姿も見られた。